江東区立豊洲幼稚園（２年目）

【園長】 福原　良子
【園児数】 160 名
【学級数】 ７学級

次の取組へ

【課題・改善】

・運動遊びは、「できる」「できない」が目に見えやすく、苦手な幼児が積極的に取り組めるようになることが課題。
⇒**「かっこいい！」「楽しそう！」「私もやってみたい！」と思える機会の創出**
・バスケットや野球などが得意な保護者の力を活用し、「かっこよく」「楽しそうに」取り組む姿を見て、憧れの気持ちから、「やってみたい」気持ちを高めるための『ワクワクバスケ』などの実践。
・「できる」か「できない」かではなく、「楽しい」をねらいとして行う。

【実態・課題】

・自ら環境に関わって取り組み、体を動かす楽しさを感じられる幼児が増えた。一方、動きのぎこちなさや、うまくいかなかったり疲れたりして、すぐにやめてしまう姿も、まだ一定数見られる。
⇒**「思わずやってみたくなる」環境の見直し**
・よりイメージをもてるイラストや音楽、雰囲気などの活用
・自分で高さや距離などを選べる環境
⇒**保護者を巻き込んだ取組**
・「げんきもりもりカード」を活用し、徒歩で通園する機会の創出

目標

・好きな遊びで自ら体を動かす遊びに取り組む幼児（９０％以上）
・難しいことや思い通りにいかないことにも、あきらめずに取り組もうとする幼児（90％以上）

【成果】

○「思わずやってみたくなる」環境の見直し
・すぐに取り組める場所に設置したことで、繰り返し取り組むことにより、動きの機敏さはもちろん、友達との関わりが増え、その結果トラブルを自分たちで解決する力にもつながった。また、保護者アンケートの「我が子は自ら体を動かす遊びに取り組む」の項目で、R4 年度から１７ポイント上がり、９８パーセントの幼児が自ら体を動かす遊びに取り組むようになった。

○保護者を巻き込んだ取組
・普段親子での触れ合いが少ない保護者も、我が子や他の親子と一緒に楽しんで体を動かすことができた。
・親子での遊び方を知り、家庭でも取り組むきっかけとなった。

【取組】

○「思わずやってみたくなる」環境の見直し
・幼児の興味や社会的に流行しているものを取り入れ、「やりたい」気持ちを高める環境（場・道具・掲示）
・少しの時間や、活動場所の移動の際に、「つい」体を動かしたくなる環境

○保護者を巻き込んだ取組
・「げんきもりもりカード」の内容のバージョンアップ（時期ごとにより楽しめる内容の見直し）
・講師を招き、親子遠足での「レッツ！親子でたいそう」として、家庭でも楽しく取り組める親子体操の実施

【取組（詳細）】

○　「思わずやってみたくなる」環境の見直し

<今、１０対２だよ>（4 歳児：バスケット）
・バスケットのワールドカップ開催後、**こどもたちがすぐに気付き、取り組める場所に手作りゴールを用意**すると、繰り返し取り組む。より、関心をもてるよう、**ワールドカップの試合結果を掲示**したり、**バスケットボールに似たボールやゼッケンを用意**したことで、夢中になって取り組む。
→毎日友達と誘い合って遊び始める。親子で試合を観に行き、そこで刺激を受け、試合のトーナメント表を作るなど、より意欲を高めている。

よし！！
ゴールに
入れるぞ

<もっとやりたい！！>
（5 歳児：ケンケンパ）
・体を動かすことに苦手意識をもっていた幼児が、保育室の目の前にケンケンパの線を貼ったことで、自分なりのペースで繰り返し取り組むようになる。**満足できるまで取り組める時間を確保**するとともに、「おもしろいやりかただね」「たのしそうだね」「さっきよりもはやくなったね」など、**『頑張っているところを認めてもらえた』、と感じられるよう、価値づける言葉を掛けることで、**「またやりたい」という意欲につながっている。

○　保護者を巻き込んだ取組

<今日は「げんきもりもりカード」を持って、「歩こうデー」>
・通園範囲が広いため、自転車で登降園する幼児が多かったので、**歩くことを親子で楽しめる取組**として、「げんきもりもりカード」を活用した「歩こうデー」を月１回設定した。毎月内容の変わるカードを持って親子で歩くことは、**こどもたちにとって楽しい時間**となり、**保護者にとっては、親子で歩く楽しさや必要性を思い出す機会**となっている。